

課題名	<p>びわ果実寒害の品種による差異</p>
成果の要約	<p>開花の早い品種が寒害を受けやすく，早生種のなかでは長崎早生が寒害を受けにくく，新品种「白茂木」は開花が遅く，寒害は少なかった。</p>
成績概要	<p>昭和56年2月の大寒波襲来の際，びわ主要品種の開花と果実の寒害の状況を調査した。</p> <p>(1) 開花はシャンパンが最も早く，フリで森尾早生，天草早生が早く，年内に開花が終った。大房，ゴールドナゲットは開花始めが遅く3月まで咲き続けた。</p> <p>(2) 着房数に対する収穫房数は早生種が少なく，中生，晩生種は30～50%程度であった。</p> <p>(3) 早生種の中では長崎早生が，開花期が遅く収穫率が高かった。</p> <p>(4) 中生種では開花時期が著しく遅い大房が90%以上と収穫率が高かった。</p> <p>(5) 晩生種では瑞穂が収穫率が高く，ついで新品种「白茂木」も約50%と収穫率が高かった。</p>

第1表 品種別の開花時期および収穫率

熟期 早晩	品 種 名	1) 着房率	開 花 時 期				収穫期	2) 収穫率
			始	盛	終	幼 果		
		%	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	%
成 早 生	森 尾 早 生	9.7	11. 7	11.17	12.13	12.27	6. 5	2.5
	天 草 早 生	8.6	11. 9	11.27	12. 8	12.17	—	0
	シ ャ ン パ ン	41.6	10.22	11. 7	11.22	11.27	—	0
	長 崎 早 生	16.0	11.12	12.13	1. 7	1.17	6. 5	14.2
概 中 生	茂 木	3.2	12. 5	12.27	2. 7	2.27	6.15	33.0
	楠	0.4	—	—	—	—	—	0
	津 雲	6.2	12.17	12.28	2.27	—	6.20	38.1
	ア ド バ ン ス	17.7	11.10	11.27	1.20	2. 7	6.15	8.8
	大 房	15.7	1. 2	2.15	3.15	—	6.20	92.4
	野 島 早 生	21.9	11.22	12.17	2.15	3. 7	6.20	37.3
	戸 越	13.1	11.17	12. 3	1.27	2.17	6.23	31.0
要 晚 生	広 東	34.1	11.19	12.11	2.12	3. 5	6.23	10.9
	土 肥	14.1	11.18	12. 5	1.27	2.27	6.23	31.3
	瑞 穂	6.6	12. 5	1.12	2.27	3.10	6.23	64.2
	田 中	7.1	11.25	12.27	2. 2	2.17	6.22	27.8
	コールドナゲット	13.2	12. 5	1.25	3.10	—	6.30	42.1
	白 茂 木	17.8	12. 2	12.22	2. 7	2.27	6.20	50.2

1) 着房率 =  $\frac{\text{着房枝数}}{\text{1年生総枝数}} \times 100$

2) 収穫率 =  $\frac{\text{収穫房数}}{\text{着房枝数}} \times 100$